

岡山県津山市椿高下  
津山高専 図書部  
TEL 22-2204  
印刷部 朝日市田部町 35  
TEL 22-3135  
(印刷所)



**彩雲国物語**

雪乃紗衣・著

この本は架空の国、彩雲国を舞台とした中華風ファンタジー小説です。名門である家の出身であるはずなのに貧乏生活を送っている紅秀麗が、「官吏になりたい。」という夢を女性には役人になれないという理由で一度は諦めたのですが、あるきっかけでもう一度追い求め叶えようとする話です。

**少年陰陽師**

結城光流・著

これは平安時代のお話です。主人公は安倍昌浩という陰陽師の少年で、彼の祖父は大陰陽師の安倍晴明です。

昌浩は陰陽師といってもまだまだ半人前で、相棒のもつくと晴明におちよくらねながら、日々修行に励みます。昌浩の成長を描いているこの本をぜひ読んでみてください。

**クレプスリー伝説**

ダレン・シヤン・著

この本は、マンガ化、映画化もしている人気小説、「ダレン・シヤン」の外伝です。「ダレン・シヤン」の主人公、ダレンの恩師だったバンパイアのラーテン・クレプスリーの過去が、クレプスリー自身の視点から描かれています。厳しく自分の姿勢を貫いたバンパイアの喜び、悲しみ、葛藤…。「ダレン・シヤン」を既読の人もそうでない人も、楽しめるシリーズです。

**兎の眼**

灰谷健次郎・著

真の教育とはなにか？真に生きるということとはどういうことか？新任教師小谷先生を取り巻く生々

しくも瑞々しい、精一杯自分の意思を持って生きる彼らの姿は、今もなお私たちの心を慰め勇気を与えてくれる——誰もが抱える心の陰を、そっと浄化してくれる暖かい不朽の名作です。

**笑顔のどろろり園**

松原卓二・著

あなたは、動物の笑顔を見たことがありますか。この本では、人間が「これは動物が笑っているところだ！」と感じた瞬間を写真に撮ってまとめたものです。もちろん本当に動物が笑っているわけではなく、あなたが、どの写真を見ても、動物が笑っているように見えるのです。ぜひ手にとって和んでください。

**ドロップ**

品川ヒロシ・著

僕は、品川ヒロシの「ドロップ」という本を紹介します。この本の主人公のヒロシは、不良に憧れる中学生です。不良の仲間入りをして喧嘩

をしたり、いろいろと悪いことをしたり、恋をしたり、いろいろなことをして、幼馴染の死をきっかけに、ある決断を下し、成長します。感動的な場面があつて、ボケとツッコミの掛け合いもあつて、笑つて泣けるとても面白い本なので、ぜひ読んでみてください。

**プリズム**

百田尚樹・著

古い洋館を構えるある家に、家庭教師として通うことになった聡子。ある日、聡子の前に、屋敷の離れに住む謎の青年が現れる。青年はときに攻撃的に、ときに馴れ馴れしく、ときに紳士的に振る舞った。激しく変化する青年の態度に困惑しながらも、徐々に聡子は彼に惹かれていく。しかし彼の哀しい秘密を知った聡子は、結ばれざる運命に翻弄され——切ない恋愛小説です。

**アシモフの**

**雑学ロケットマン**

百田尚樹・著

古今東西の雑学や豆知識を集めた本。著者は有名な「ロボット三原則」を提唱したロシア人作家、訳はシヨートシヨートで有名な星新一。どちらも多くの著作をもつSF作家で、内容も天体や生物、医学にはじまり、古代ギリシャの歴史や逸話、

科学の発明、など様々な雑学が書かれてあり、とても興味深く読める。

**メモリーを消すまで**

山田悠介・著

日本の治安は悪化し多くの凶悪犯罪が起こっていた。政府は犯罪撲滅のため全ての記憶をチップに記録し全国民に装着させ、記憶削除法を制定した。それから半世紀が経ちチップが悪用され始めた。記憶捜査官である相馬の上司がありえない計画を企てる。「消えた9時間」をめぐる逃走、復讐劇の果てに感動のラストが待ち受ける！

**超訳百人一首**

**うた恋い。**

杉田 圭・著

この本は百人一首を分かりやすく訳してその和歌が作られたときのエピソードをマンガにしたものです。昔、電話もメールもなかった時代の現代では考えられない不自由さの中で、貴族たちは恋心、いらだち、感動、絶望、誓いなどのあふれる思いを31文字の和歌にこめました。古典に興味がない人や苦手な人も少女マンガ感覚で読めるし、面白くてわかりやすいのでとてもおすすめです。

### 容疑者Xの献身

東野圭吾・著

第134回「直木賞」受賞作品。推理小説「ガリレオ」シリーズ第3弾です。東野圭吾の作品は過去に5回直木賞候補に挙げられていましたが、ようやく受賞したのがこの作品です。

天才物理学者・湯川はある事件がきっかけで、湯川が唯一天才と認められる天才数学者・石神と出会う。天才数学者が生み出すトリックに湯川が出した答えとは・・・？そして描かれる数学者の切ない恋。ぜひ読んでみてください。

### 図書館戦争

有川 浩・著

「図書館の自由が侵されるとき、われわれは団結して、あくまで自由を守る。」正化三十一年、「メディア改良法」によって表現が制限される時代が出来上がった。それに対抗して、「図書館」というものが設立された。——アニメ放送化、アニメ映画化もされて、近年実写映画化もされる作品です。

### 往復書簡

湊かなえ・著

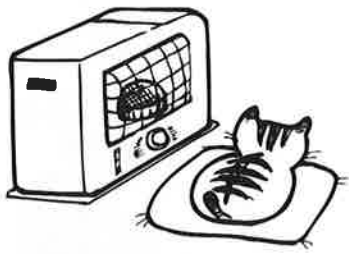
本屋大賞をとるなど今話題の湊かなえさんの本です。この本には3つ

の作品が収録されており、どの作品も共通して「往復書簡」を中心に話が進んでいきます。手紙を読んでいくと、徐々に物語の真相が明らかになるので最後まで楽しんで読めます。「二十年後の宿題」という話は映画の原作にもなっているので、ぜひ読んで下さい。

### 冥王星を殺したのは私です

マイク・ブラウン・著

2006年、太陽系惑星の地位を剥奪され、準惑星に降格した冥王星。その事件の「犯人」となった本書の作者マイク・ブラウンは冥王星に次ぐ10番目の太陽系惑星を発見し、一躍時の人になった。人間味あふれる天体発見史をなぞりながら、天文学の醍醐味を味わう、科学読み物。



## 読書感想文紹介

佳作地区 高校生

読後感想文コンクール

佳作作品

### 『きよし』を読んで

岡山県立津山高専学校 二年 長瀬 加奈

私は自分の性格をあまり積極性はなく、どちらかと言えば内向的な性格ではないかと思っている。小学校から考えてみれば通知表の「積極性がある」というような欄に「よくできる」の丸がついたことはないような気がする。でも、私は、自分の性格を言い表すには、内向的という言葉だけでは不十分な気がした。私が考える内向的というのは、自分の気持ちというベクトルが全て自分に向けられているような感じだ。つまり、自分の気持ちは持っているが、表に出さないということだ。しかし、私は「自分の気持ち」がわからないのだ。自分の気持ちや意見に自信がなく、迷っているうちに自分の気持ちが変わらなくなってしまうのだ。自分の気持ちがわからないのにどうやってそれを表に出すことができる

伝えることができるひとに九割憧れ、一割嫉妬を抱いてしまう。やはり自分にはないものはうらやましくなるもので、結局はその人のようになりたいと願ってしまうのだ。

最初この物語の主人公きよしは自分と似ていると思った。きよしは吃音でうまく自分の気持ちを伝えられない。でも私とは全く違って、きよしは自分の気持ちを持っており、自分の気持ちを伝えようと必死に言葉を探していた。でもうまく伝わらないこともあり、そんな自分と葛藤し、自分を卑下するときもあるが、そんな人間らしいきよしを、私は格好いいと思った。それはフィクションのわかりやすい格好良さとは違い、尊敬に近い格好いいだった。

私は自分の気持ちを持てないのではなく、自信のなさから自分の気持ちを迷子にさせてしまいがちなのだ。だから私はまず自信を持つことから始めたい。するといつか私は自分の気持ちを真っ直ぐ相手に伝えられるだろうか。将来そんな自分に会いたい。

だろうか。こう考えると、気持ちを表に出さないことが共通していても、私の性格と「内向的」という言葉には、ギャップを感じる。そこで私は自分の性格により適当な言葉を探し、たどりついたものが「優柔不断」だ。私なりのそれへの解釈は「自分の気持ちに迷っていて、自分の答えが見つけ出せなくて、自分の気持ちをうまく伝えられないこと」だ。

たえば「言葉」で気持ちを伝えるときに私は一番怖いと思ってしまう。言葉は、物的なものとしては残らないが、一度口に出されたら取り消せないのだ。仮に私が自分の気持ちに迷っているときにポロツと失言してしまったら、私はそのことを後悔し、次の言葉を発することに恐怖するだろう。人の意見に正解、不正解はないと言う人もいるが、どうしても適切でないというものが存在する。私が自分の気持ちを伝えるときに迷いが生じるのは、そういう恐怖もあるからかもしれない。



『優秀作品』

『虹の岬の喫茶店』

を読んで

岡山県立津山高등학교  
一年 上森 香穂

小さな岬の先端にたたずむ喫茶店。その喫茶店を経営しているのはおばあさんだった。おばあさんはどんな訪問者にも優しく、それぞれに合わせた曲を選曲してくれた。そして訪問者たちは、おばあさんの優しさで温かいコーヒーと音楽に救われるのだった。

この小説の中で印象に残った言葉はたくさんあった。その一つが、人は大切なものを失った時、その一方では恩恵を授かっているということに気付くことができる。これは何を失った男性に向けられたおばあさんの言葉だ。この男性の場合、最愛の妻を亡くしたが、かけがえのない宝物である娘が残されていた。大切な何かを失くしたり、何かつらいことがあったりした時、どうしてもマインスマンばかり目が向いてしまいがちだ。一つの視点だけにとらわれてしまえば、そこで立ち止まってしまいかもしれない。しかし、少し視点を変えただけで、失ったものの方で恩恵を授かったのだと気付くだけで、前へ向いて歩き出すことができ

るのだ。おばあさんの言葉からそんなことに気付かされた。視点を変えたいという事はどんな事にも繋がっていると思う。そうすることで新たな発見があり、希望を見つめることができるだろう。希望を忘れないければ、きっと強く生きて行けるのだ。

もう一つ印象に残ったのは、夢についての話だ。就職活動に行き詰まっていた大学生とおばあさんのおい、おばあさんの夢について話していた場面での言葉だ。夢は、人によつては持っているだけで意味があつたりもするんだ。その言葉を受けて、夢を持つ意味について考えてみた。おばあさんは既に夫を亡くしており、一人で喫茶店を経営していた。そんなおばあさんにとつての夢とは、生きる意味であり、希望であつたのだらう。私にとつてはどうだろう。私には将来就きたい職業がある。その夢は勉強をする理由の一つであり、勉強をはじめとする様々なことを頑張ろうと思える源になつていいると思う。そう考えると、夢というのはそれを叶えるために努力し、実際に叶えることも大切だが、まず夢を持つこと自体に意味があるのだらう。上を目指し、夢を見るのは自分の将来を諦めていない証拠だと思ふ。だから、夢を持つことは人が生きていく大きな理由になるのだらう。

変えてみることや、希望や夢について、自分が持つていなかつた考え方を知つた。人と人との出会いの素晴らしさも知つた。これから生きていく中で、夢と希望だけは失くさずにいようとと思つた。そして、この物語の中のおばあさんのように、どんな人にも優しく接し、その暖かさで誰かを包み込んであげられるような人になつていきたいと思つた。

『優秀作品』

『私は貝になりたい』

を読んで

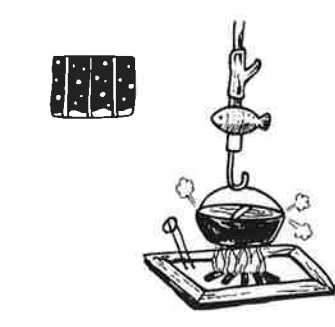
岡山県立津山高등학교  
一年 内藤 友紀

この本は、元陸軍中尉である故人加藤哲太郎氏の手記「狂える戦犯死刑囚」の遺言部分を元に橋本忍氏が脚本化したものであり、第二次世界大戦後、理不尽な裁判に翻弄された豊松という男の人生を描いたものである。豊松は戦争が激化し、出征することとなり、厳しい訓練の日々を送つてきた。そんなある日、命令が下つた。「アメリカ軍B-29の搭乗員を確保、適当な処分をせよ」と。そして彼らは命じられた通り確保し、不本意ながらも刺殺したのであつた。しかし戦後、家族と幸せな生活を送つていたある日、豊松は戦犯として逮捕され、理不尽な裁判にかけら

れることになる。抗議も空しく、幼い子どもと妻を残し、豊松は死刑となつてしまふ。

私が大きく衝撃を受けた場面は三つある。まず一つ目は初めて知つたこの戦争の中で起きた事実、アメリカ兵を刺殺する場面である。人はこれほど敵の死を望むものなのかと疑問がわいてくるほどであつた。確かに何十万人という命を奪つた事実は、私も許せない。しかしそれは、アメリカだけの一方的な行為ではなく、日本も同罪だという事を忘れてはいないだらうか。また、多くの命を奪つた人たちに罪を償わせるのに、命を奪うことが最も良い方法なのだらうか。私は、彼らの行為を彼ら自身の手で確かめ、自分たちのやつたことの重大さを実感させられないと思ふ。日本はここで大きなミスをしたと言えらるだらう。

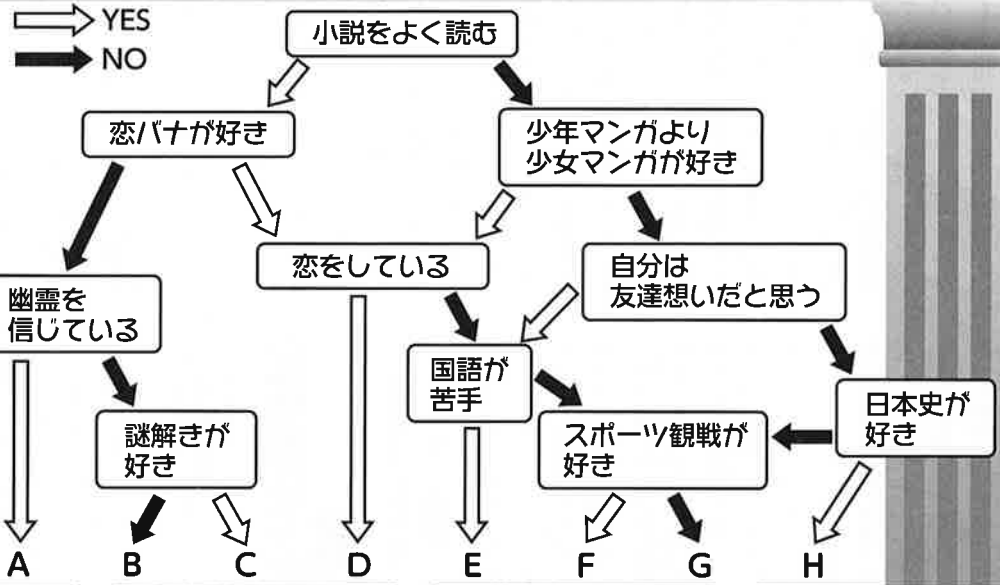
二つ目は家族愛だ。家族の愛は自分が思つてい以上の大きく温かい。豊松の家族が少しでも豊松の刑を軽くしようと、雨の中、雪中、幼い子供と共に署名を集める場面はそんな気持ちに気付かせてくれた。例えば我が家ではいつも王様で意地悪な兄。でも私が事故にあつた時、一番心配してくれたな。つらい時はいつも話を聞いてくれたな。私にとつてのヒーローみたいなだ。この場面を読んでいると無意識にこんな事を考えていた。「家族愛」の意味を私に思い出させてくれた場面であつた。



そして三つ目、豊松が家族の写真や片手に死刑台へと向かう場面。豊松の幸せを強く願つていた私にとつて、この時の衝撃はとてつもないものだった。死刑という事実を知つたとき、豊松の中では、死への恐怖、人を殺した後悔、もう己の手で家族を守れない悔しさ、神への恨み、あらゆる感情が嵐のようにかけめぐつていたことだらう。私はこの場面を読み、世界一残酷な凶器は人間であると、人への恐怖を強く感じさせられた。

私はこの本に感謝したい。この一冊の本は、本当に多くのことを考えさせてくれた。今、手を伸ばせば、助けてくれる友達もいて、家族もいて、毎日笑つて過こしている。こんな当たり前のことを幸せだと感じられるチャンスを与えてくれた本であつた。また、もう少しで離ればなれになつてしまふ兄へのありがたさも教えてくれたので、これからの後悔も少しは減つただらう。私は、この本に出会えて本当によかつたと思つてい

# 図書館風味の心理テスト



Aになった人にオススメのジャンルは「ホラー」です。  
図書館が選んだ、読んでほしい1冊は「親指さがし」です。この本はリアル鬼ごっこや×(パツ)ゲームなどで有名な山田悠介の作品です。呪いと恐怖のノンストップ・ホラー小説を是非読んでみてはいかがでしょうか。

Bになった人にオススメのジャンルは「図鑑」です。  
図書館が読む機会ってあまりないですよ。なので、この心理テストを機にあなたが気になる図鑑を探してみてください。

Cになった人にオススメのジャンルは「ミステリー」です。  
図書館が選んだ、読んで欲しい1冊は「Nのために」です。図書館のKさんは「告白でこの本の著者である渡かなえさんを知ったのですが、この本にもドキドキさせられました。是非、たくさんの方に読んでほしいです。」と語っていました。


Dになった人にオススメのジャンルは「少女漫画」です。  
図書館が選んだ、読んでほしい1冊は「ちはやふる」です。図書室にもあるので知っている人も多いと思いますが、この本には小説版もあるのでそちらの方も是非手にとってみてはいかがでしょうか。青い春ってます!青春しまくってます!!

Eになった人にオススメのジャンルは「少年漫画」です。  
図書館が選んだ、読んで欲しい1冊は「SLAMDUNK」です。SLAMDUNKといえばバスケット漫画/バスケット漫画といえはSLAMDUNK!是非、読んでみてください。

Fになった人にオススメのジャンルは「スポーツ」です。  
図書館が選んだ、読んでほしい1冊は「バッテリー」です。  
熱いぜ、野球!

Gになった人にオススメなのは「成美文芸」です。  
文学部の血と汗と涙の結晶です(笑)  
是非、手にとってみてください。  
プチ成美の方もオススメですよ。

Hになった人にぴったりのジャンルは「歴史」です。  
図書館のオススメは「源氏物語」です。  
かっこいい光源氏にメロメロになっちゃいませう!



今回のライブラリーはどうでしたか?  
今年の図書館は一昨年から部員不足とは打って変わって多くの部員が在籍しているため、紹介されている本は多種多様で部員一人ひとりが自分の中で一番面白いと思っただけばかりです。もし、ライブラリーの本紹介を読んで少しでもその本に興味を持ったなら、ぜひその本を最後まで読んでみてください。あなたの日常を変える一冊になるかもしれません。

**第58回青少年  
読書感想文  
岡山県コンクール**

佳作...1年 安田 有輝  
1年 利久 法子